

## そうま歴史資料保存ネットワーク（※1）シンポジウム

相馬市は12年前、東日本大震災と原発事故により大きな被害をこうむりました。地域の再建に市民が取り組む中で、2019年の台風19号による洪水、さらには2021年、2022年の福島県沖地震と大規模災害が続きました。（中略）町並みはすっかり様変わりしてしまいました。同時に家屋の解体によって、大切に保存されてきた文化財も廃棄・散逸の危機にさらされることになりました。

このような惨状を目の当たりにし、私たちは「そうま歴史資料保存ネットワーク」を2022年9月に結成し、活動を開始しました。市民により組織・運営され活動を行う資料ネットとして全国初のものです。

（シンポジウム「そうまの歴史を守る・つたえる」2023 代表 鈴木龍郎（※2）氏の開催趣旨より抜粋）

9月3日（日）午前は、相馬中村地内の史跡めぐり、午後は相馬高校視聴覚室でシンポジウムが行われ、事務局長の武内義明（※3）氏が、これまでの活動の経過報告を行った。続いて、報告発表が3件、

- |                             |         |           |
|-----------------------------|---------|-----------|
| 1 そうまネット発足の意味               | 福島大学    | 阿部浩一氏     |
| 2 相馬市の文化財の現状とこれから           | 福島県民俗学会 | 岩崎真幸（※4）氏 |
| 3 野崎家の土蔵に遺されていた江戸時代の相馬商人の歴史 | 東北学院大学  | 斎藤善之氏     |

続いて、ローカルジャーナリストの寺島英弥（※5）氏が、街の文化の継承とその喪失を止めるため、これまで発信してきた数々の貴重な記事や写真の紹介があった。



パネルディスカッションは、阿部浩一氏進行のもと、鈴木龍郎氏、斎藤善之氏、岩崎真幸氏、佐藤重義（※6）氏、寺島英弥氏が、「地域文化財の伝承とそうまネットの役割」と

題して行われた。最後に、神戸大学の奥村弘氏が、生きていくときに何が大事なのか、未来にどう残ししていたらいいのか、この流れを大切に共有して行きたいと日本の公費解体の問題点も含めてまとめた。

別会場の「若駒会館」では、昨年からの福島大学の学生や地元高校生の応援も得て、レスキューや片付けを行った「野崎家土蔵」、「鈴木家家屋」、「まる久」、「丁子屋書店」の資料の展示を行った。



（※1）現在会員21名。「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」や「宮城歴史資料保全ネットワーク」の指導、人的支援を受けながら、歴史資料の保全、記録、整理活動を行っている。会長はじめ役員が多くが、馬城会員（相馬高校卒業生）である。

（※2）本ネットワーク代表。高普第23回、昭和46（1971）年卒。中村出身。日本画家。

（※3）高普第28回、昭和51（1976）年卒。八幡出身。相高教諭：平成21（2009）～平成30（2018）年、令和3（2021）年～現在（常勤講師）。

（※4）高普第22回、昭和45（1970）年卒。中村出身。みちのく民俗文化研究所代表。

（※5）高理第4回、昭和50（1975）年卒。中村出身。元河北新報社論説委員。

（※6）高普第24回、昭和47（1972）年卒。中村出身。（株）丁子屋書店。

（脚注は会員名簿等による。写真・文責 村山）